

災害時に市立病院の役割を果たすために

3年前の東日本大震災、昨年9月の越谷市周辺の竜巻、豪雨や大雪など突然襲い掛かる大災害の恐ろしさを身近で感じるようになりました。

市立病院では今後大規模災害が発生することを想定し、病院の設備機能の確保や災害時に素早く対応できるよう災害訓練に力を注いでいます。また、病院単独での対応には限界があるため、被災地以外からの支援を受けて活動できる体制づくりも進めています。



災害にも対応できる設備機能

平成23年3月に発生した東日本大震災では東北地方などの多くの病院が被害を受け、病院における災害対策の重要性を改めて認識させられたところでした。こうした大規模な災害が発生した場合に、病院は院内の患者さんや職員の安全確保を行うだけでなく、被災した傷病者を受け入れることになり、そのため設備機能の確保が必要となります。

災害時に水道、下水、電気などが寸断されると、医療活動に支障をきたします。このため、市立病院ではライフライン確保の対策を講じています。まず、手術や集中治療など生命に直結する電力を維持するために、自家発電機を備えています。また、入院患者さん用の3日分の食糧と水を備蓄しています。そのほか水洗トイレ等で使用する水を確保するため、病院敷地内で井戸掘削工事を行いました。さらに通信手段として衛星回線も引いています。



エントランスホールでの治療

来院するため、広い診療スペースが必要となります。重症患者さんは救急外来で治療し、その他の多くの患者さんはエントランスホールや外来待合で診療を行います。当院の外来待合の椅子はベッドとしても利用できる仕組みになっています。簡易ベッドやテントは備蓄倉庫に保管しています。また、玄関ロビーの壁を開けると酸素の取り付け口と非常用の電源が配備されています。

通常の診療とは全く異なる災害医療

災害時の診療は、普段の診療とは全く違い、一人の医師が何十人も患者さんの診療をしなければなりません。そのため、定期的に訓練を実施し、災害時に素早く対応できるよう技術の向上に努めています。

トリアージ訓練もそのうちのひとつです。トリアージは、多数の傷病者が発生した場合に、一人でも多くの命を救うため、治療の必要性が高い傷病者とそうでない傷病者を選別し、治療の優先順位を決定する大変重要なものです。トリアージをせずに



救急搬送患者のトリアージ

来るべき大災害に備えて

草加市立病院救急科部長 南和

災害には5つの種類（地震・津波・風水害・原子力災害・感染症）があります。どの災害もある日突然、恐るべき破壊力ややって来ます。阪神淡路・東日本大震災を経て、国内の災害医療は急ピッチで整備されています。それでも災害発生直後は現場が混乱し、災害の規模や人が人の数が正確につかめず、救援は遅れがちです。また、交通

が遮断され、救援がたどり着かないこともしばしばです。そんな時、一番力を発揮するのは、その場に居合わせた市民の方々です。大島の台風で家屋の下敷きになった人を救い出したのは、近所の人達です。ボストンマラソン爆破事件では、ランナーが大出血する人の足を圧迫し、心臓マッサージをして命を救ったと聞いています。福知山の火花

大会では、救援隊が到着した時、すでに動ける人と動けない人で区分けされていたそうです。

災害用の水や食料を準備するように、心肺蘇生や応急手当についても、日頃から慣れ親しんでいただくようお願いいたします。草加市消防本部では救命講習会など随時行っています。また、災害時には命を救うことが優先されることにご理解下さい。

東日本大震災でのお互いを思いやる被災者の姿は世界に称賛されました。草加市の皆さまもどうぞよろしくお願いたします。

先着順で診療を行った場合、重症者が長時間放置される事態が生じます。また、医療スタッフや医薬品が足らなくなってしまう、確実に救命が可能であった人への処置ができなくなることなども考えられます。トリアージは限りある医療資源を適切に配分するための前提となる作業なのです。

災害拠点病院の指定に向けて

大規模災害発生時には、多くの傷病者が発生します。重症の傷病者を一人でも多く救命するためには、市立病院や草加市だけでなく被災地以外の力を借りて支援してもらうことが重要です。

阪神・淡路大震災の教訓をもとに、国では災害時の医療を確保することを目的に、24時間対応可能な緊急体制をもつ「災害拠点病院」の整備を進めています。県内では現在15の病院が指定されていますが、市内には「災害拠点病院」がなく、市立病院は今年度中に県から「災害

拠点病院」の指定を受けられるよう医療体制を整えているところです。

災害拠点病院の役割は、災害時に発生する重篤な救急患者さんに対し24時間緊急対応を行い、患者さんの受け入れや搬送、消防機関と連携した医療チームの派遣を行うことです。しかし、現在市立病院内には患者さんの受け入れや搬送のために使用するヘリコプターの離着陸場がないため、災害時には防災公園の機能を持つ綾瀬川左岸広場、または松原団地内に整備される松原近隣公園を離着陸場として利用する計画です。空路による医療・救援物資の受け入れや搬送は、災害時に大きな力を発揮します。

近い将来に高い確率で発生するとされている大規模地震。市立病院では万が一の災害に備え、一層の医療機能の強化に努めています。